

「リプロダクティブ・ヘルス相談支援ガイドライン」の開発

竹元 仁美

東京純心大学看護学部看護学科 教授
 (NPO法人FOSC (フォスク) 理事 山本 八千代氏の代理発表)

飛行機が飛ばず、北海道から山本が来れませんので、共同研究者の竹元が代理で発表させていただきます。

研究で助成をいただいたのは、実はこれで3回目です。2010年と2011年にファイザープログラムで『こころとからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援事業』というところで助成をいただきました。そのとき助成金をいただいた分が、今回の研究につながっているのですが、メールの無料相談のサイトを立ち上げ、それ以来始めております。

そういうことで、3回目も助成いただきまして誠にありがとうございます。

【ポスター1】

Reproductive Health/Rightですが、既に皆さまもご存じのこととは思いますが、日本語に直訳しますと『性と生殖に関する健康と権利』ということです。

健康に関してはお分かりだと思っておりますけれども、権利のところでは、ポスターに示しております通り、すべてのカップルと個人が自分たち子どもの数、出産間隔、出産する時期を、自由にかつ責任を持って自己決定ができるための情報と手段のサポートを享受するという権利です。

あとは、書いてございますので、ご参照いただきたいと思います。

【ポスター2】

本NPO法人FOSCはファースト・ワン・ステップ・サポートセンターということで、最初の第一歩を踏み出すための支援をしていくことを主眼として立ち上げております。

内容に関しては、大きいところで申し上げますと、相談支援それから居

ポスター1

はじめに Reproductive Health/Rightとは

...people are able to have a responsible, satisfying and safe sex life and that they have the capability to reproduce and the freedom to decide if, when and how often to do so.
 Implicit in this are the right of men and women to be informed of and to have access to safe, effective, affordable and acceptable methods of fertility regulation of their choice, and the right of access to appropriate health care services that will enable women to go safely through pregnancy and childbirth and provide couples with the best chance of having a healthy infant.

(出典：WHO Reproductive health)

1. すべてのカップルと個人が、自分たちの子どもの数、出産間隔、出産する時期を自由にかつ責任をもって決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという権利
2. 差別、強制、暴力を受けることなく、生殖に関する決定を行える権利
3. 女性が安全に妊娠・出産を享受でき、またカップルが健康な子どもを持てる最善の機会を得られるよう適切なヘルスケア・サービスを利用できる権利

(出典：小原ひろみ：日本国際保健医療学会国際保健医療用語集、「リプロダクティブ・ヘルスとは」)

ポスター2

研究目的と方法

1. 研究目的
 リプロダクティブ・ヘルスの問題を抱える当事者の支援を検討するため、FOSCがインターネットサイトに開設する「女性の心と体を守る情報ナビ」の、メール相談(匿名)に寄せられた相談内容を分析し、妊娠・中絶・避妊、性感染、性暴力など、性や身体に関する日本のリプロダクティブ・ヘルスに関連する事象の実態解明と課題抽出を行うことを目的とした
2. 研究方法
 「女性の心と体を守る情報ナビ」が開設された2013年7月から2017年11月31日の間に寄せられた匿名の相談内容のうち、「女性の心と体」に関係が薄いと判断されたものを除いたものを分析した
 分析は、相談内容を熟読し、女性特有の身体的、心理的、社会的、性的健康に関わる記述を意味のあるまとまりを抽出した。類似したものを集約し、カテゴリー化を行い、カテゴリー毎に説明を加えた
3. 研究(分析)期間
 2016年12月1日～2017年11月30日である。
4. 研究の倫理的配慮
 匿名性の確保、自由意思の尊重と研究協力の同意確認、データ保管にあたる安全性の確保、当法人の倫理委員会による審査と承認(承認番号1601)

場所の提供です。困難を抱える子どもと女性への支援センターでありますので、居場所をつくるということでステイというところを提供しています。これは、2家族まで、子どもさん2人まで受け入れ可能というシェルターのようなもの。それから、同行サービス、心の無料相談、そして子どものケアということで、教員資格を持つボランティアの学習サポートなどを行っています。

本研究に関しては、先ほど申し上げたように、助成をいただいて『女性の心と体を守る情報なび』というサイトを立ち上げました。主には10代から20代の女性の心と体を守るというところで、情報を発信するサイトです。無料相談になっております。

あとは、自助グループとして『ひだまり』というところで皆さんに集まっていたり。性暴力関係に関しては、セルフヘルプグループということで、性的な被害体験や傷つきを持った女性の集まりの自助グループ、それから、女性であることによる健康、心の健康のサポートをするセルフヘルプグループ等も運営してございます。

本研究では、そのFOSCの中の『女性の心と体を守る情報なび』に寄せられたメール相談に関して、内容分析を行いました。

サイトを立ち上げたのが2013年で、そこからこちらの表で示している通りです。

開設当初は5件程度でしたけれど、他のところとリンクしまして、だんだん増えてまいりました。年300件を少し超えるところで推移しています。

【ポスター3】

対象にしたのは、2013年7月29日から2017年11月30日までの1035件の相談内容です。

内容に関しては、個人特性として年齢と職業についてお伺いしていますけれど、記入されない方がかなりの数を占めますので、分かっているところでは、年代としては10代が240、20代が207、あとは30代、40代、50代と続いております。

相談をして来られる方は当事者だけではなく、周りの親御さんだったり、きょうだいだったり、知り合いだったり、教員が「生徒が」ということで相談をなさる方もいらっしゃいます。背景は、分かっている分ではここにお示ししている通りです。

分析方法としては、内容に関してリプロダクティブヘルスに関係ないものは除外して、分析しました。1035件の内容を分析していきますと、1449の内容に分類されて、それをカテゴリーにしてグルーピングして、名前をつけて、意味をつけていったということになります。

一番多いのが表3に示しておりますけれども、妊娠SOSということで「妊娠したかもしれない」という相談です。「全然、分からないのだけれど」というようなことが一番多くて、617件ございました。

2番目に多いのがメンタルヘルスの問題で、精神的な不調を訴える。性行為、妊娠というふうなトラブル等

ポスター 3

結果①		表3 メール相談内容と件数	
表1 メール相談件数		カテゴリー	件数
年	件数		
2013年(7月29日以後)	5	1) 妊娠SOS	617
2014年	90	2) 中絶後の心身の不調	43
2015年	327	3) インターネットを利用した性暴力のトラブル	41
2016年	373	4) 配偶者からの暴力 (DV)	46
2017年(11月30日まで)	240	5) 配偶者ではないパートナーからの暴力 (デート)	112
計	1035	6) 性暴力・性虐待	85
表2 当事者の背景(総数1035)		7) 性感染症	55
人数		8) 性行為に関連する身体の不調	80
不明	536	9) 身体の不調(婦人科疾患、生殖機能の低下)	107
20歳未満	240	10) 身体の不調(婦人科以外の内臓等の疾患)	48
20代	207	11) 性行為、自慰行為の悩み	45
30代	33	12) メンタルヘルス問題	148
40代	18	13) 身体への悩み	5
50代	1	14) 経済的な相談 (妊娠や中絶に関連しない)	14
不明	561	計	1449
生徒または学生	295		
職業等	117		
正社員・派遣	117		
専業主婦	24		
家事手伝い・病気療養中	38		

がなかったものです。

3番目に関しては、配偶者でないパートナーからの暴力ということで、デートDVです。その次が身体の不調で、婦人科疾患、生殖器の不調を訴えています。

5番目が性暴力、性虐待についての相談で、あとはお示ししている通りです。

【ポスター4】

具体的な相談内容について、いくつか実際のメール相談に寄せられたもので、もちろん、同意を得たものをこちらのほうにお示ししました。

妊娠についての不安ということで、「どうしよう」という相談が、1449件のうち617件で非常に多いのですけれど、典型的な例でお示ししますと、2つ目に書いていますように「生理が日になっても来ない」ということで、「彼氏と性行為をした」と。それで「膈外射精なので、予定日からちょっと遅れているからどうしたらいいのだろうか」というところで「妊娠検査薬を使うのも怖い」というようなことの相談が非常に多いです。

【ポスター5】

2番目にお示したのは、いわゆるDV、ドメスティック・バイオレンスですけれども、こちらのほうもかなりの件数が来ておりますが、夫、それから元夫からの暴力ということで、子どもを巻き込んだ暴力がかなり多い。

【ポスター6】

3番目にお示ししているのが、配偶者ではないパートナーからの暴力ということで、デートDVです。相談者が10代から20代で、デートをする関係の、配偶者ではない方からの暴力ということで、こちらのほうもかなり深刻な相談が来ております。彼か

ポスター 4

結果 メール相談内容①「妊娠の不安」

…生理が〇月〇日から来ていて5日目の〇月〇日の朝ほとんど血は出ていなかったで性行為をしてしまいました。最初から最後までコンドームは着用していましたが着用する際に裏表を間違えてしまい、コンドームが一つしかなかったので我慢汁が表についているまま行為をしてしまいました。破れや漏れはありませんでした。生理の周期は〇日くらいです。そのあと〇月〇日にも二回、性行為をし、その時は裏表間違えることなく終わった後もスムーズに挿入を終わらせ破れていないかも手で触って確認しました。しかし、〇月〇日あたりが生理の予定日なので来るのか不安です。妊娠の可能性はあるのでしょうか…

…生理が3日~4日ほど遅れています。〇日と〇日に彼氏と膈外射精をしました。生理の予定日は〇日です。痛み過ぎなのか胃が痛いです。妊娠初期症状のように、胸の張り、吐き気などありません。妊娠検査薬を買うのも怖いですが、どうしたらいいですか。助けてください…

…〇月〇日に彼氏と性行為をしました。最初はコンドームをつけて、途中でフェラをし、その後一度だけペニスを生で挿入して抜きました。それだけでも妊娠しますか？コンドームに穴がないか調べましたがありませんでした…

…性行為をしました。しっかり避妊したのですが、妊娠初期症状を調べるうちにだんだん不安になってきました。フェラをした後、1度だけ避妊具を使わずに生で挿入してしまいましたが、すぐ抜いたので、中には出ていません。でももしも、という事を考えると怖いです。妊娠している可能性というはあるのでしょうか…

ポスター 5

結果 メール相談内容② 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」

…主人(30代)の性格、神経質で一度気になったら気が済むまで執拗にやり続けるその為には手段も選ばず、妻も子も顧みない子育て(1歳児)も関係なし、子どもの前でも苛立ちの感情を露わにします。暑かったので夜、網戸にして風を通していたら虫が大量に部屋に入ってきたんですが、晩御飯の用意と子どもに御飯を食べていたのが気が付きました。そのことで主人は怒りが爆発し、その後、部屋中めちゃくちゃになり掃除機で壁や天井の虫を2時間以上吸い続けました。その時掃除機を床に投げつけたら机や椅子を蹴ったりしたので、それがあまりにも怖く子どもと2階に避難しました。子どももご飯の途中だったので、再びご飯を食べる気になれませんでした。これが初めてではないのですが、今回今までにない恐怖を感じました。主人はよく自分がイライラしていると周りのことを無視して自分の気が済むまで発散する傾向があります。そういった時は、思い切った無視するか強く抗議するかで乗り切り、主人の気が落ち着くのを待っています。今夜は子どもがしっかり見ている前で苛立ちを見せつけ、モノにも当たり、子どもが「ハイハイ」と駆け寄っても無視したのを見た時、この人と歩み寄れることは今後もしかしらないのかもしないかと思いが出ました…

…7年前から言葉の暴力、1年前から暴力をふるわれていました。その暴力を子どもも見えています。今日はふとしたことで私の態度が気に入らなかつたらしく不機嫌で、土下座して床を舐めろ、と頭を踏まれました。頼むから死んでくれと言われながら、明日内緒で逃げたいと思っています。その場合…(逃げる方法の質問)…

ポスター 6

結果 メール相談内容③ 「配偶者ではないパートナーからの暴力(デートDV)」

…別れようと言うと殴られたりします。「もうしない」と言われて、しかし昨日三回目です。どうしたらいいですか(20代前半)…

…高校生です。交際が続き現在まで4年ほど続きますが、その過去に浮気を3回されていて注意しても辞めようとする気配は無く精神的に限界だった私は2年目か3年目の時に別れ話をLINEで伝えるときいきなり「金を返せ口座を教えるからここに入れろ」と言われてしまい、まだ学生だった私は母親にも言うことが出来ずとも怖くて別れることが出来ませんでした。彼は私に高いブランド品をやると言って私は断ったのですが、無理矢理バッグや財布を渡されてしまいました。彼のLINEを見ると知らない中高生や女の人のトークがあり、いかがわしい話や沢山の写真ばかりでした。

…家で会う時は必ず性行為をしました。断っても反抗しても力で負けてしまっていました。なぜ会っていたのかと言うと、LINEで「死にたい、俺なんかいなくても困らない、辛い」という文章がひたすら送られてきて、ここで会おうと拒んだら本当に死んじゃうんじゃないか、とか、今までの性行為を他の人にバラされるのではないかという恐怖があったからです…

…初めまして。私は今、一緒に住んでいる彼から逃げたいです。なかなか逃げられません。別れようとするけど包丁を持ち「死んでやる」と騒がれます。実家に帰ると追いかけてきて連れ戻されます。実際は実家にも問題があるため、帰りたいはありません。元々母から暴力を受けていました。今、仕事もやめさせられ彼の仕事を手伝うように強要されています。基本的に昼夜問わず働かせられ休みはありません。吐こうが何をしようが働かされます…

ら逃げたいけど、なかなか逃げられないというような状況になって、「どうしたらいいか？」
というような相談が寄せられています。

【ポスター7】

4番目に関しては、性暴力と性犯罪関係の相談です。

声を掛けられてついていってしまっ
て、望まない性行為をされたという
ようなものがかなり目立っています。

これらの相談を見ていきますと、相談
をされる方の避妊の知識とか、ライ
フスキルと考えているのですけれど
も、スキルがないというところで自
己決定ができない未熟さとか、SNS
で知り合ってあんまり考えずに安易
についていって性暴力に合うリスク、
それから、そういう男性とどうい
う関係を作っていくかということが自
己決定できないというような、さま
ざまなことが出ていました。

【ポスター8】

考察に入ります。

当事者は一刻も早く支援が必要なの
ですけれども、うつなどで支援を
求めることがなかなかできない状況
にありますので、周囲の人たちがい
ち早く気付いて、支援の輪につない
でいくことが非常に大事になるかと
思います。

【ポスター9】

まとめになります。

そういうことで無料相談に寄せら
れるこれらの相談の拡充が必要です。

メール相談はまだそれほど広まっ
ておりませんので、そういうことが
できる支援員の知識、認識、技術を、
いろいろ言われている理論を使いな

ポスター7

結果 メール相談内容④
「性暴力・性犯罪関連の相談」

…声をかけられて車に乗せられました。そして車の中でいきなりキスをされましたその後はホテルに連れていかれて服を脱がされて触られたり舐められたりしました。その時に写真を取られて…「変なことすると学校に写真持っていくよ」と言われました。どうしたらいいですか？(10代)…

…先月、用事があり深夜に近い新宿を歩いていた。道を歩いていた男にナンパされ「飲みに行かないか」としつこく誘われて、はっきり断れなくて何度もしつこく誘われて着いて行ってしまいました。バーの中で彼氏がいるかなど聞かれましたが「いる」と答えたら、「今夜忘れよう」と言われ、屈辱的でした。バーを出た後も「何もしないからホテルに行こう」と言われ、やはりはっきり断れなくて着いて行ってしまいました…

…今住んでいる場所に引っ越してきた日に性被害にあいました。大学生活が楽しみで仕方なく、大学が決まってから同じ大学に入学する人たちと交流していて、引っ越してきた日にそこで知り合った A君と2人で会うことを約束していました。高校までの男友達は本当にただの友達で、2人でいても何の心配も無かったので、それが普通だ、常識だ無意識に思っていたのですが、そのA君は違いました。最初家に入れてもらった時は何も無かったのですが、30分くらいしてから急にボディタッチが多くなってきてベッドに座られました。今までの経験も無かった私でもこれはまずいと理解しました。どうやって逃げようか考えても隙間なく押さえつけられ服を脱がされ体を触られました。最初は抵抗していましたが、頭が真っ白になって何が起きているのかわからず、抵抗する気力がなくなってしまいました。痛みを感じた時ももう一度必死に抵抗しました…今も本当に辛いです…

ポスター8

考察

「リプロダクティブ・ヘルス」とは、性と生殖に関する健康・権利で、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態と、子どもを産むかどうかなどを自ら決定する権利を含んでいる。しかし、すべての人がリプロダクティブ・ヘルスの権利を十分享受できているか、本研究の結果からは、そうとは言い難い現状が明らかになっている。男女の平等な関係と共同の意識、責任意識、女性の自己決定の力などを見ると、当事者を取り巻く状況には厳しいものがある。

リプロダクティブ・ヘルスの問題が生じた場合、当事者が一刻も早く「支援の手」が差し伸べられることが、最大の目標となる。しかし当事者は支援を探索する力を失った人が多い。うつや不眠等の精神症状など精神的健康を害している当事者も少なくない。DVや性暴力の当事者は「時に自殺したい気持ちがあふれてきてつらい」、「もう本当に疲れ、どうしたらいいか」、「これから事件と向き合っていく力が沈んできた、どうか助けてください」などと不安や悲しみ、孤立感、孤独感を訴える。加害者が「憎い」「許せない」と思う一方で、自責の念もかかっている。被害者であるにもかかわらず、当事者は自身の問題を誰にも言えず、1人抱え込んでいる。電話相談においても匿名での相談は可能であるが、「ホットラインはほとんどつながらない」や、「行政の相談ダイヤルは相談先を紹介してくれるだけで役に立たない」と、電話をした経験のある人からよく聞かれる。そのため、限界はあるがインターネットやメールを介した相談には「誰にも言えない」当事者やその周囲の人にとっては、有効なものとなる。当事者に支援の手がより届くためにはインターネットやメールでの相談は拡充される必要がある。

ポスター9

まとめ・結論

1. メール相談の拡充と充実
2. 相談を受ける人の知識、認識、技術の向上
3. 「緊急性の吟味」、「構造的暴力を知る」、「支援の原則エンパワメントと自己決定の尊重」など
4. メールから対面の支援へつなげる
5. メール相談を含む支援組織がつながり続ける

がら向上させる必要があると思います。

最終的には、メール相談から対面へつなげる。

それから、全国にいろいろ組織がありますので、そちらの方に一つ一つ丁寧につなげる
ことが必要かと考えております。

質疑応答

座長： ガイドラインを作り上げようとしていると思いますが、現在はどのような状況にあるのでしょうか。作成されたものをどのように活用することを考えていますか。

竹元： 現在のところFOSCが、「リプロダクティブヘルス支援の現場から」ということで、現状を分析したものを一冊、作っております。それを基に、どのように周りの支援をしていくかということで、まず、被害実態を知っていただくとか、具体的に支援の方法論があるのでそれをお示ししてつないでいく、というような第2弾のガイドライン…本当のガイドラインを今、作っているところです。
10代の小学校ぐらいの方々も相談されているので、小学校、中学校、高校のスクールカウンセラーとか、ご家族の方とか、皆さんに周知していければと考えております。

会場： この活動は、起きた後にそれを早期発見して、なるべく問題を小さくしようという活動だと思うのですが、事例が起きないようにするのに一番大切なのは何かということが分かっていたら教えていただきたいのと、ガイドラインを作るのであれば、そこからぜひ記載していただきたいと思います。

竹元： ありがとうございます。2番目については、誠にそのようなことで、もう1か月ぐらいでガイドラインをお示しできるかと思えます。
1番目の予防のことですが、私は性暴力のほうを行っているのですが、男女の性意識というところで、男性のほう为主导して、それを断れないという女性のジェンダーの問題があるかなというのが一番です。だから、小さいうちからそういう教育をしっかりと、自己決定ができるように、大きい話になりますが、文化自体を変えていく必要があるかなと思います。それと、上手にアサーティブに関係性を作るライフスキルを身につけていく必要があるかと思えます。
ご質問とはちょっと違うのですが、被害からすぐ相談できる当事者と、それから本当に十何年、20年以上たってから、やっと相談できるようになったという当事者もいますので、そこら辺も合わせて、今後の課題として考えております。

ありがとうございます。